

神無月：第19話「自己評価は95点、残りは可能性の5点」

10月26日たくさんの来賓や地域の方、そして保護者の方にお越しいただいて、学習発表会が開催されました。本校は、毎年、劇や音楽を通して、日頃から学んでいることを生かしながら発表しております。そのことがどのような形で発揮できたのかを考えてみました。



まず、発声練習に気を配って、一番後ろの席でご覧いただいている方に声を届けるということです。そのために、視線はやや上向きになるよう指導しております。なぜなら、その方が後ろの席でご覧いただいている方に声を届けやすくなることに加え、視線をやや上向きにすることで、客席からはライトが当たり、目が輝いて見え、生き生きと演技している様子が伝わります。このことは、どの学年も指導しておりました。また、声を届けるためには、間を取りながらゆっくりセリフを話すことが求められます。1年生「おむすびころりん」、3年生の「もちもちの木」は、国語科の教科書で学習した題材をアレンジしたものです。その分、登場人物の気持ちになって、自分のセリフを話すことができたように思います。

そして6年生の「For～平和のために～」は、10月初めに平和公園や本川小学校に校外学習に出かけて、原爆のお話を聞いたり、新しくなった原爆資料館でいろいろなことを感じ取ったりしました。また、外国人観光客の方々とも交流して、平和の象徴である折り鶴を渡したりもしました。こうした体験をもとに児童の言葉を組み合わせて脚本を作って、会場のみなさんに発表しました。

次に、時代の流れとともに、変化するものと変えることなく守っていくものがあると感じました。来年度から実施される学習指導要領では、音楽科において、基礎的な技能を身につけるだけでなく、「自分の思いや意図をもって表現する」ことが求められています。これは劇にも同じことが言えます。台本通り、先生の言われた通りを演ずるだけでなく、自分で感じ取ったことをもとに、自分なりの表現の工夫が求められていると考えています。5年生が、劇の大道具や小道具、背景の制作を仲間と協力して、楽しそうに作っている光景を目にして、子どもたちによる音楽づくりや劇づくりの視点が大切だと感じました。

最後に、会場でご覧いただく皆様を意識した構成や演技の工夫です。まず、入場、退場も演技の一つと考え整然と並び、自分の立ち位置が決まったら、動かずに待つことを繰り返し指導しました。2年生は、本番はもちろんのこと、練習の時からよくできていました。写真のように、マリーネズの皆さんの楽器を演奏する姿勢は見事でした。



これを他の学年のリコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏にも生かしていく必要があります。また、50人前後の児童一人一人に活躍の場、言い換えると一人になる場を想定しながら構成を考えていますが、その際、セリフ以外の出番（ライトやパネル）を増やしたり、セリフを聞いている人の演技（例えば、話している人の顔を見るとか、他の人のセリフに反応するとか…）を考えさせたりするなどです。4年生は、全体合唱とソロ、リコーダーと鍵盤ハーモニカのお互いが引き立つような構成の工夫が感じられました。



6年生の印象的な作文を紹介します。「小学校生活最後の学習発表会が終わりました。自己評価は95点。でも、残り5点は失敗した5点ではありません。まだまだ伸びるという5点です。可能性の5点です。いつかこの5点もうまるような、これ以上ない何かをできるようになりたいです。」・・・子どもたちもいろいろ考えてくれています。

校長 寺岡 成希